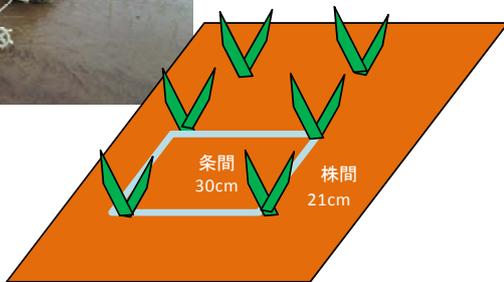


# 研究レポート No.703 岩手県農業研究センター

## 岩手県における水稻品種「ひとめぼれ」の疎植栽培の特徴

### 【1 成果の概要】

- (1) 約 16 株/㎡の疎植栽培は通常の田植機でもギアの変更により実施でき、使用箱数、使用種子量、箱運搬時間、種子購入費、培土購入費はいずれも3/4となります。
- (2) 疎植栽培の分けつ期の茎数は少なめに経過し、6月下旬の稲による土壌の被覆度は8割程度です。また、疎植栽培は標準栽培(約 21 株/㎡)よりも出穂期、成熟期は1~2日程度遅れ、穂数及び収量は標準栽培の9割程度です。



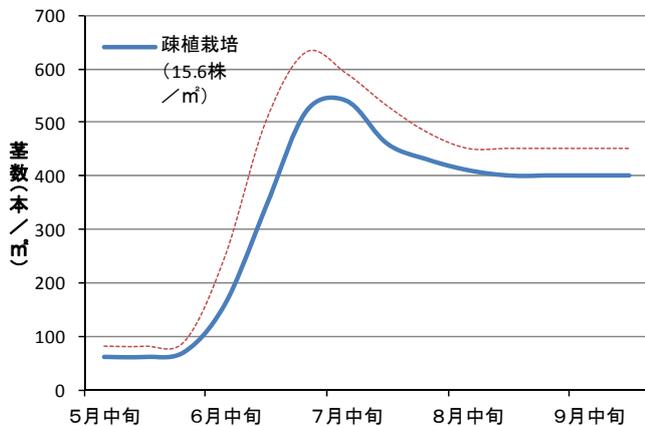
疎植栽培実施の様子と栽植密度

疎植栽培と標準栽培の比較  
※生育量は草丈(cm)×茎数(本/㎡)

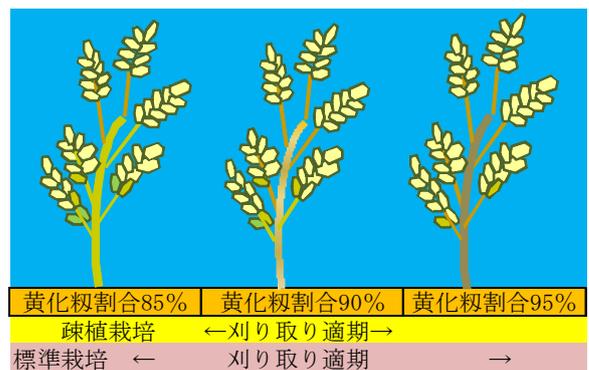
	疎植栽培 (15.6 株/㎡)	標準栽培 (約 21 株/㎡)
6月下旬の生育量*	13900 (70%)	19000 (100%)
出穂期	8/7 (±0)	8/7
成熟期	9/19 (+1)	9/18
収量	578kg/10a (91%)	628kg/10a (100%)



6月下旬の疎植栽培(左)と標準栽培(右)の状況  
2013年5月15日 移植 「ひとめぼれ」



標準的な栽植密度と疎植栽培の茎数の推移



疎植栽培と標準栽培の刈り取り適期

### 【2 留意事項】

- (1) 低温で分けつ発生が遅れ、稲による土壌の被覆度が少なくなった場合は、雑草が多発する原因となるほか、減収する恐れがあります。安定した分けつを確保するため、「ひとめぼれ」の栽培適地内で実施してください。
- (2) 農業研究センター以外での生育や他の品種、側条施肥等異なる施肥法、病虫害発生への影響等は確認していませんので、実施にあたってはこれらの点を含め、安全に栽培できるかを十分に考慮してください。